



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 宮島喜文
 編集責任者 深澤憲治
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

- P1 4月15日は“Biomedical Laboratory Science Day”（世界検査医学デー）
 P2～P3 都道府県技師会 各地での取り組み（埼玉県編）
 P3 大規模災害時の支援人材育成講習会（その1）を開催中
 P4～P5 日臨技 入会手続き操作方法のご案内
 P6 ◆私たち、臨床検査技師の認知度向上のためのポスターの原案を募集します！◆

“Biomedical Laboratory Science Day” （世界検査医学デー）

= International Federation of Biomedical Laboratory Science =
 = (IFBLS)からのお知らせ =

毎年4月15日は
 Biomedical Laboratory Science Day” (BLS day)

みなさまもご存知である4月15日は“Biomedical Laboratory Science Day” (BLS day)です。
 2024年のテーマは昨年を引き続き次のとおりです。

Guardians of Quality and Patient Safety: Biomedical Laboratory Scientists

「臨床検査技師：品質と患者の安全の守護者（監視人）」です。

このテーマは、新型コロナウイルス感染症の流行を経験した私たちが直面する新たな課題と、その克服に向けた臨床検査技師の役割を強調しています。

我々臨床検査技師は、検査の精度管理をしっかりと行い、患者の安全を守ることで、医療体制の安定化に貢献しています。また、検査結果に基づいた診断や治療計画の立案、患者への情報提供など、重要な役割を担っています。

BLS Dayは、1996年にノルウェーのオスロで開催されたIFBLS世界会議で設立されました。診断および予防医学における臨床検査技師の重要な役割を啓蒙するために、IFBLSが制定したものです。BLS Dayの目的は、国際的に臨床検査技師が医療提供における役割について意識を高めることです。これは、日本臨床検査技師会（JAMT）が毎年行っている全国「検査と健康展」と同様な行事であるといえます。

毎年、加盟国でその年のテーマに沿った各種のBLS Dayのイベントが開催され、その内容はIFBLSの事務局へ報告されています。毎年のテーマは、IFBLSの理事会で健康問題に関連した内容が選択され、国際連合(US)と世界保健機構（WHO）と連携が可能な開発目標を支援します。このテーマは2年間使用されます。

国際臨床検査技師連盟（IFBLS）は、世界中の臨床検査技師のネットワークを構築し、彼らの専門性と役割の向上を支援しています。BLS day は、IFBLS が毎年開催する国際的な記念日であり、臨床検査技師の重要性を広く認識してもらうための活動の一つです。

IFBLS のホームページでは、BLS day に関する情報や、臨床検査技師に関する様々な資料を閲覧することができます。

BLS day は、臨床検査技師の重要性を再認識し、我々の未来への活躍を応援するための記念日です。みなさまも、ぜひこの機会に臨床検査技師の仕事について理解を深めてください。



2023・2024年のBLS DAY ポスター
 IFBLS HP: <http://www.ifbls.org/>

都道府県技師会 各地での取り組み(埼玉県編)

全国47都道府県それぞれに臨床(衛生)検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨床と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、埼玉県技師会の活動について県内施設のオープンホスピタルにて積極的に中学生への臨床検査技師という職種を積極的にアピールしている取り組み、さらに、若手技師向けの研修会の企画・開催や学生セミナーの講師などの活動をおこなっている青年部委員会について紹介いたします。

臨床検査技師を目指す人を増やしたい 2023 オープンホスピタル開催 ～地域の中学生を対象とした医療職体験～

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
北里大学メディカルセンター

鈴木 香織

2023年8月5日(土)この日も朝から強い日差しが照り付け、9時の時点で気温は30度を超えていた。2019年にはじめて当院でLABOセミナーと称し、地域中学生を対象に臨床検査技師体験を実施した。その後コロナ禍となり実施ができなかったが病院には夏休みの職業体験イベントの再開を望む声が多く届いていた。2023年3月コロナ5類移行前ではあったが、多職種の体験ができるオープンホスピタルの開催を決定した。参加職種としては医師/看護師/薬剤師/栄養士/メディカルソーシャルワーカー/臨床検査技師の6職種で シーズン① 医師体験・シーズン② 看護師体験・シーズン③ コメディカル体験と3回に分けて実施した。医師体験では手術室におけるダビンチの模擬操作体験・術中ナビゲーションシステムを用いた脊髄固定体験など普通ではできない体験に驚いていた。

薬剤師のブースでは、注射器を用いて薬剤の入ったバイアル(瓶)と点滴用注射剤を清潔に混合する体験を行い、管理栄養士は清涼飲料水の中に含まれる砂糖の量や、身近な食品に含まれる油や塩分についてクイズ形式で学んだ。メディカルソーシャルワーカーという仕事について初めて知る中学生も多く、仕事の内容について対話形式で体験した。臨床検査技師は実際の採血器具を用いた模擬採血体験・血液型判定・超音波の仕組みについて知り、実際に身体の中を超音波検査装置で見る体験をした。

参加者アンケートからも継続した開催が望まれており、初回の参加者から臨床検査技師を目指すことに決めましたとうれしいお知らせも届いた。

臨床検査技師は医療の職種のなかでも知名度の大変低く、はじめから臨床検査技師を目指そうという学生はごく稀である。若いうちから臨床検査技師の



仕事を知ってもらい、目指す学生を増やすことで臨床検査技師の底上げにつながり、社会的地位の向上にも貢献できると考える。また今回、多職種でおこなうことによりコメディカルとしての横のつながりもできた。特に中学生から見ると若いスタッフの方が身近に感じられるため、若い世代のスタッフの活躍がとても印象に残っている。

準備の段階からどのようなことをすれば子供たちが喜んでくれるのかとわくわくし、当日は参加した中学生が実際に機械に触ったりする体験は五感を刺激され、各ブースで感動の声をあげたり、きらきらとした眼と新鮮な反応にドキドキし、開催終了後は達成感に満ち溢れる体験ができました。

開催後のアンケート結果からも参加者・実施者ともに高評価が得られている。

このような取り組みが広がり、多くの臨床検査技師になりたいという気持ちを持つ中学生が増えることを期待する。

埼玉県臨床検査技師会 青年部委員会の紹介

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
青年部委員会委員長
埼玉医科大学病院

北川 裕太郎

埼玉県臨床検査技師会では青年部委員会を2018年に立ち上げ、10名の委員で現在5年目の活動を迎えます。

委員会のコンセプトとして以下の3つを軸に活動を行っています。

1. 他施設の会員と交流する場（環境）の提供
2. みんなで勉強する機会を作る
3. 交流会・研修会を通し、埼臨技の活動を身近に感じてもらい、研究班研修会や技師会事業へ積極的に参加できる人材を増やしていく

2019年に現地での研修会（資格取得をテーマ）と懇親会を開催しましたが、コロナ禍となったため、以降はWebでの研修会を中心に活動しています。

毎年1回の研修会を行い「クイズで紐解く実際にあった怖い事例 ～みんなが困った、怒られた実例集～」、「当直なんか怖くない!! ～こんなことあったらあなたならどうする?～」といったテーマでWebならではの投票機能を利用して若手技師を中心に講演をしています。今年度の研修会は県外を含め、35都道府県より200名以上の方々に参加いただき盛況でした。

また、その他にも埼玉県医学検査学会で学生向けセミナーや人材育成研修会での講師依頼のお話しもいただき、青年部委員が講演を行っております。



人材育成研修会での講演

さらに、埼玉県臨床検査技師会創立70周年記念式典では埼臨技奨励賞（委員会部門）という大変名誉な賞をいただくことができました。

この様に青年部委員が広く活動できるのは施設の上司、先輩のご理解、ご協力あればこそと思います。この場をお借りして御礼申し上げます。

来年度は他都県との交流会も計画し、新たな繋がりや互いの成長の場を作れるようにしたいと思っています。

今後、委員はじめ多くの若手技師が躍進し、新たな出会いや発見の場を提供できるように、青年部委員会一同、尽力していきたいと思っております。



埼臨技奨励賞
（委員会部門）を受賞

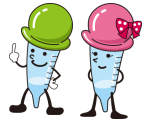
大規模災害時の支援人材育成講習会(その1)を開催中

大規模災害時には会員施設における臨床検査機能を維持することの他、被災地の求めに合わせてJ-MAT（日本医師会）や日本赤十字等と共同し、活動できる臨床検査技師が必要となります。本講習会は、いどこで起こるかかわからない災害に備え、全国的な支援人材の育成を目的としています。臨床検査技師として災害対策本部で支援活動ができる知識の習得を目標とし、大規模な災害発生時における対応の原則・概念、情報管理や資源管理に関する知識を学んでいただきます。

会 期 : 令和6年4月1日（月）～10月31日（木）
会 場 : Web開催（日臨技Web研修会システム）
受 講 資 格 : 日臨技会員
受 講 料 : 無料
点 数 付 与 : 生涯教育研修制度 基礎教科 20 点
申込・受講方法 : 会員専用ページより①事前参加申込み
→ ②事前参加申込済一覧から受講



日臨技 入会手続き操作方法のご案内



多くの職場で新たな仲間を迎える季節がやってきます。そこで、Webからの入会手続きの方法をご案内いたします。会員の皆様には入会をお勧めいただく際にご参考としていただけますと幸いです。

Step 0! まずは入会専用ページへ

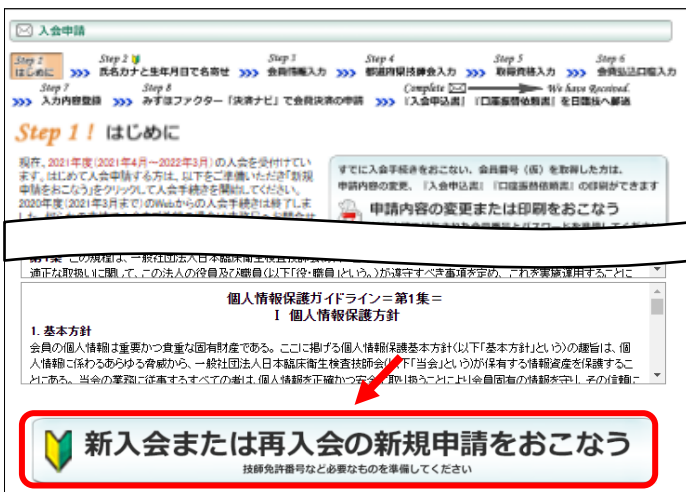
- ・画面はお使いのPCやブラウザ、スマートフォンによって表示が異なる場合がございます。



日臨技HPのトップページの「入会・再入会はこちら」からページ中ほどにある「入会専用ページ」に進みます。

※Webからの手続きができない場合には、少し下にある「入会申込書（新入会・再入会）・口座振替依頼書のダウンロード」から申請書類を印刷できます。

Step 1! はじめに

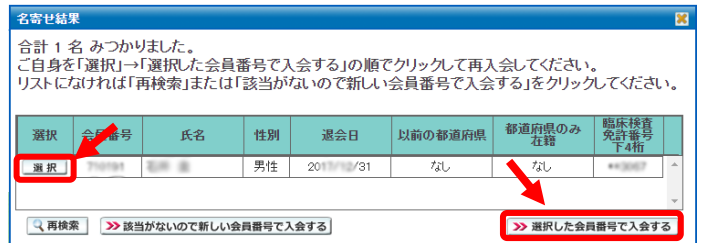


「事前にご準備いただくもの」と「個人情報保護規定」等を確認し、「新入会または再入会の新規申請をおこなう」から手続き開始。

Step 2! 氏名カナと生年月日で名寄せ

再入会の方は、在籍当時の氏名を入力してください。

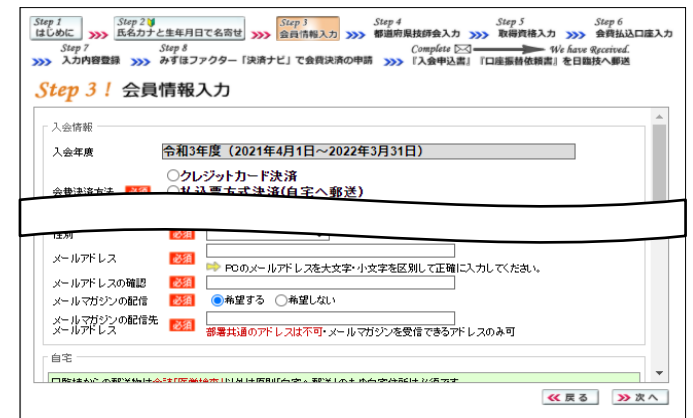
※再入会の方・都道府県技師会に在籍されている方は、次の画面で名寄せの結果が表示されます。



再入会の方は、表示された情報は自分のもので間違いないか確認のしてから「選択」を押し、「選択した会員番号で入会する」でStep 3に進みます。

Step 3! ~ Step 6! 画面に沿って内容入力

必須項目を入力してください。



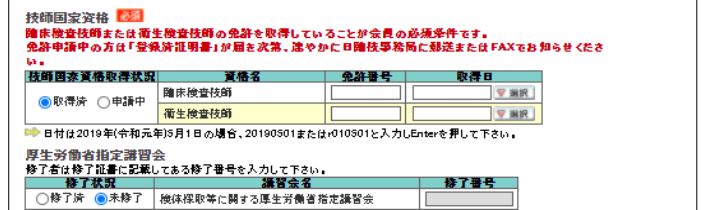
※再入会で氏名等が変わった方はこの画面で変更してください。

※入会希望の年度にご注意ください。年度途中での入会でも年会費の月割り等はいたしません。

※当会の会員及び会費等に関する規程 第3章 第3条により、都道府県技師会への入会が必須です。すでに都道府県技師会に在籍の方は自動で選択されています。

※初年度の会費のみクレジットカード決済または払込票方式決済を選択いただけます。2年目以降の年会費は指定口座からの自動振替となります。Step6で振替希望口座を登録してください。

Step 5! 取得資格入力



※臨床検査技師免許番号を「申請中」として手続きをした方は、お手元に「登録済証明書」が届き次第、コピーを事務局へご提出ください。ご提出いただけない場合は、免許なしと判断し1年で自動退会となります。

◆私たち、臨床検査技師の認知度向上のためのポスターの原案を募集します！◆

昨年、一般国民1,000名へのアンケート調査を実施したところ、私たち臨床検査技師の認知度は22.7%でした。患者や健診受診者の皆さまを通して臨床検査技師を広く知ってもらいたいと考えました。

【目的】 一般国民への臨床検査技師の認知度向上

【実施方法】 検体採取や生理検査の際、患者や健診受診者に声掛けし、職種である臨床検査技師を名づけることを継続的に実施する。

【応募要領】

①募集期間：2024年4月1日（月）～5月31日（金）

②想定印刷サイズ：A3またはB4

③掲示場所：検査室事務室、採血ブースのバックヤードなど

④内容：ポスターの原案及びキャッチコピーを募集

臨床検査技師の認知度向上を喚起するもの、イラストや写真（注1）、スローガンなど自由に組み合わせ可（注1：ネットからの画像やキャッチコピーの転用に注意、原則利用不可、二次利用などの使用許諾が証明できるものは可）

⑤ファイル形式：PowerPointまたはWORD

⑥選考基準：日臨技広報委員会にて選定、執行理事会及び理事会を経て決定

⑦表彰（賞金）：最優秀賞1作品 10万円 優秀賞2作品 3万円

⑧応募書類：下記メールアドレスにメールにて依頼

⑨応募先：masuoka-masatsugu@jamt.or.jp

問い合わせ

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

担当執行理事 宮原 祥子

事務局 広報課 増岡 雅嗣

〒143-0016 東京都大田区大森北 4-10-7

TEL 03-3768-4722

FAX 03-3768-6722

E-MAIL masuoka-masatsugu@jamt.or.jp

（編集後記）新型コロナ感染症も5類感染症として位置付けられ約1年が過ぎようとしております。ウィズコロナ、アフターコロナとして社会活動も以前のように戻りつつあります。この編集後記を執筆している真っ最中に桜が咲き始めました。やはり新年度には桜ですね！！今年こそは何年かぶりにお花見をして季節を感じ、新たな年度の目標に向かって皆で共有して素晴らしいスタートを切れれば思っております。

（芹澤）